

総合市民センター

☎(24)9511 FAX(23)7444

Ⓢ原則として祝日および年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう！日本の四季と古典文学～秋の章・冬の章～
11月13日(金) (秋の章)、12月11日(金) (冬の章) 10時～11時30分 / 講師＝伊藤 雅敏先生 / 定員＝25人 (申込順) / 申込＝9月17日(土)9時～電話にて、土日とも17時まで申込可

ガビン先生と

楽しく学ぼう



日本の四季と古典文学



冬の章

No. 4



香野 藤雅

令和二年十二月十一日(金)

伊藤雅敏



于時^ニ 初春^ニ 令月^ニ 氣^ニ 淑^ク 風^ニ 和^カ

天平二(七三〇)正月十三日

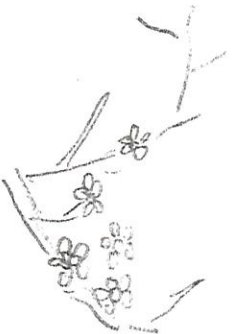
(32名)

・西海道九国三島
 国司たち
 太宰府
 官人たち

「梅花の宴」

うかれのこじま
遊行女婦見島

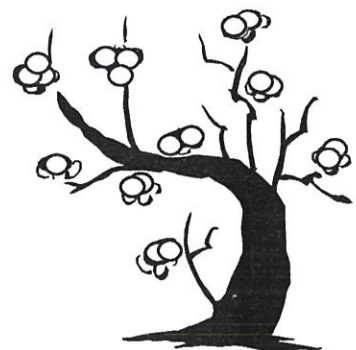
和國から送られた
上向貴の梅の花



山上憶良

大伴旅人

大伴旅人



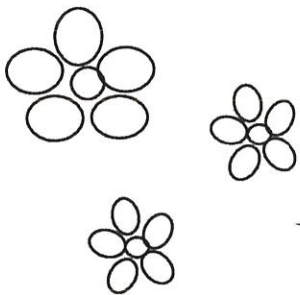
わがそのに

うめの花ちるる

さかたの

あめまうゆきの

ながれくるかも



万葉集

令和元年十一月二十九日

新元号「令和」記念
はじめての万葉集講座

むしむしありありのむしをえらうなき

物と思ふと京はあつてあはれの方よ

まむしをよまよまよめきむら

むしありとす人もありあつて

いふなりみちいぬ人もあつて

まむしをよま

みしはのむしをよま

ろくをよまむしをよま

くむしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

ほむしをよまむしをよま

むしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

むしをよまむしをよま

御所本

④

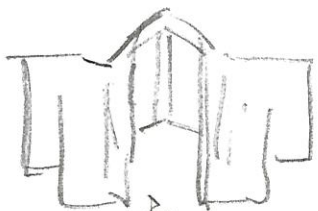
御所本

宮内庁書陵部蔵

冷泉為朝蔵



我が写本一た



唐衣

第九段

東下り



から衣

ぎつなれにー

つまーあれは

はるばるきぬる

たびをーぞ思ふ

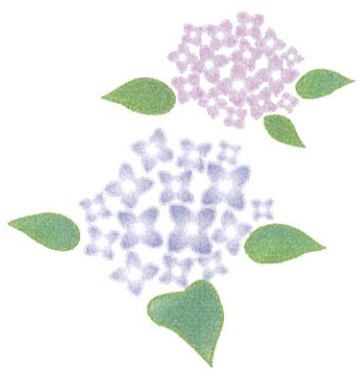


伊勢物語

令和二年七月三日

日本の四季と古典文学
「春の章」 「夏の章」

橘諸元



⑥

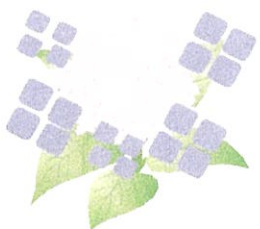
あぢやゝゐの

八重咲くごとく

ハフ代にな

いませわがむす子

見つつかのばむ



万葉集

令和二年七月三日

日本の四季と古典文学
「春の章」 「夏の章」

みむべの国くに
生玉部足國

筑紫への旅人の歌



父母が

殿の^{しり}後方の

百代草

百代いでませ

わが来たるまで



万葉集

令和二年十一月十三日

日本の四季と古典文学
「秋の章」

藤原敏行

こさかたの

雲の上にて

みる菊は

天つ日生しとぞ

あやまたれける



古今和歌集

令和二年十一月十三日

日本の四季と古典文学
「秋の章」

鶉衣

横井也右



人物の正体見たり

枯尾廿二

蕪村句集

与謝蕪村



狐火の

燃えつくばかり

枯尾廿二

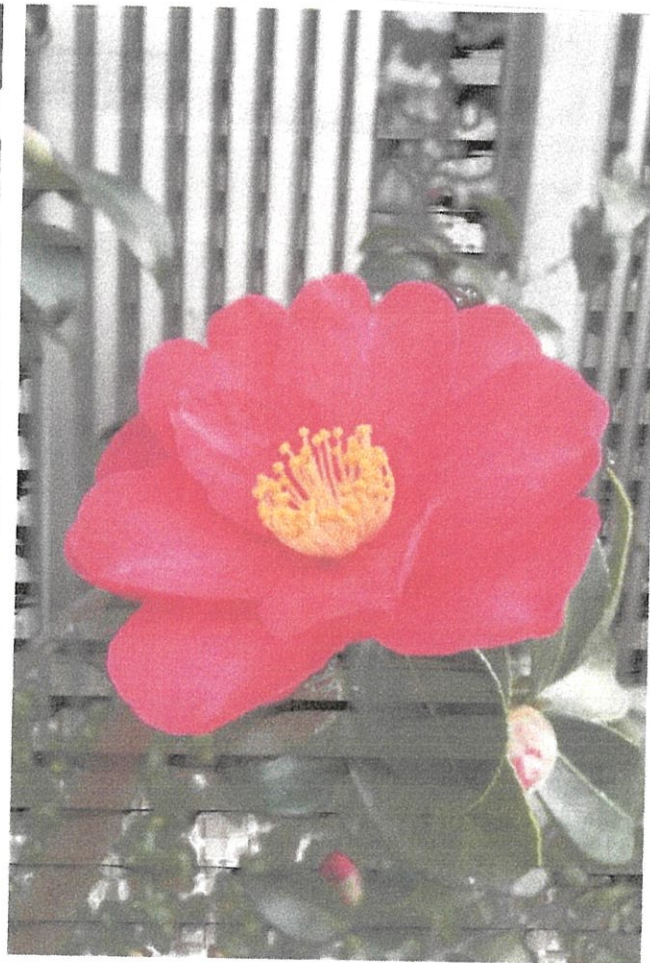
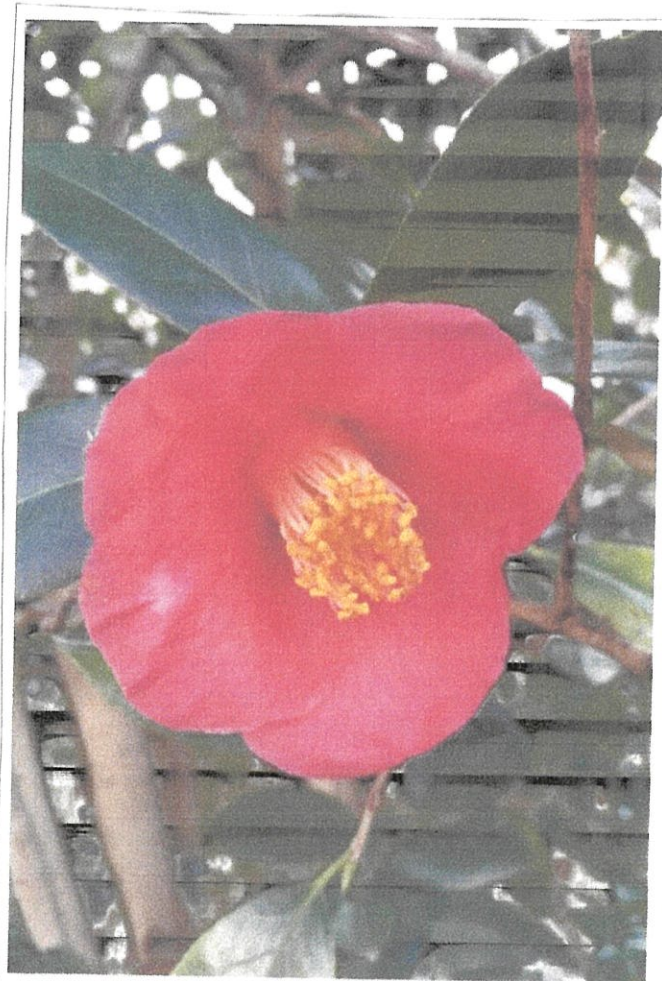
令和二年十一月十三日

日本の四季と古典文学
「秋の章」



どちらが

「椿」？
「山茶花」？



西本願寺本 萬葉集 卷一

文武

持世也

大正天皇尊号能此始

伊國

大寶元年辛丑秋九月太上天皇幸千紀國時歌

コセヤマノツラクツラクニミツノオモハナコセノルノ子
巨勢山乃列々椿都良々々介見乍思奈許端乃春野乎

サカトノヒトナリ

右一首坂門人足

アサモヨシキヒトヒシメマツキマニキカトミラムキヒトモシモ
朝毛青木人五母亦打山行来跡見良武樹人友師母

ツキノ木トマユミ

右一首調首淡海

或本歌

カハカミノツラクツラクニニミヒトカスコセノルノ子
河上乃列々椿都良々々介雖見安可受巨勢能春野者

ツキノ木トマユミ

右一首 春曰藏首老

九月十六日

(大陽曆=十月二十七日)

坂門人足

54

12

巨勢山の

※この歌から原則として

作歌の年月が明記

+

書式が変わる

されている

つらつら椿

椿

日本的用法 ↓ 国産の木
椿 = 春十木 (春の木)
命の象徴 ↓

つらつら 一面に葉が茂り

連なっている様子

連なっているたくさんの椿

↓ 熟視する様
じつと見る

つらつらに

見つつ惚はな

△同行の人たちに呼びかけ ↓

今日の前に無い

惚はな 無いものを想像し

心の底から深く思う

よくよく見ながら楽しもう

花咲く春を思う

巨勢の春野を

つばきが満開の

巨勢の春の野を

大正良皇御所市古瀬

(祖母)

持統天皇が

文武天皇(孫)と共に

和伊の白浜温泉へ旅す

(行幸)

椿は今、
咲いていない、
思い浮かべる
想像の世界

阿吽寺境内 (旧巨勢寺)

昔から椿の木が多くある

元の歌か？

かすかのくらぶこのおゆ
春日其歳首老 (詩人)

56

13

かわかみの
河のうへの

川のほとりの

つらつら椿

たくさん連なる椿よ

つらつらに

おっと連らなつて

見せも飽きず

見ても飽きない

巨勢の春野は

巨勢の春野は

椿

日本原産 ↓ 遣唐使は唐へ(土産)の献上品として椿油を持ってきた。

海石榴・都波伎・山茶

椿

[4月 ~ 12月] (開花)

老枝 枝葉 果実

半開き 完全に 開花しない

花首 から カット

落ちる

山女花

[12月 ~ 10月]

毛が生える

完全に開花

花びらが

散る

<11/7~11/11>の頃

四季 → 二十四節気 → 七十二候

「冬」 → 「立冬」 (初候)

つばき はじめてひらく

水が凍り始める

「山茶始開」 ↔ 「水始氷」
(日本) (中国)

~~山茶~~

→

次・末

(つばき) 山茶花 (茶梅)

〔江戸時代〕
渋川春海等による
『本草七十二候のふり』

落ちる



散る

初雪の

松尾芭蕉

水仙の葉の

たちむまで

「あつめ句」より

(34句)

1687(貞亨4)

中世以前に出てこない

← 水仙 水仙 雨 雪中花 雅客

松尾芭蕉の自選句集

江戸(芭蕉庵)に居た今日、待ちに待った初雪が降ってきた。

その雪の重みに耐えかねて、水仙の葉が折れ曲がっている。

(私の暮らしている庵で初雪を見ようと外出していても、
空が雨雪で暗くなると、急いで帰宅することが何度もあった)

芭蕉 43歳 貞亨3年12/18の句(新し句)

芭蕉年譜大成

※平安室時代に中国から渡来

(地中海沿岸原産)

仙人は(中国の古典)
天仙・地仙・水仙

仙人のよつに寿命長く清らか

我が草の戸の初雪見んと 余所にありても

雪だに響り体はば 急ぎ帰るもあまたたびなりけるに

新巻中の八日 はじめて雪降りけるよるこむ

古今和歌集 324 冬

紀秋岑 あきみね

しがの山^みえにてよめる

白雪の

所も^もわ^わか^かず

降りし^しけ^けば

山^{いなほ}巖^いにも咲^いく

花とこそ見^みつれ

「雪」の華^{ハナ}——古典的感覚

雨^{アメ}を好意的に見ている

△崇福寺の近傍を越える瀧原日へ出る

志賀越道を越える際に詠んだ。

白い雪が

(雨)

(冬の華)

雪^{アメ}を

好意的に見ている

どこへも分け隔てなく
ところかまわず



絶え間なく降る
降りしきっている

地上^{地上}一面が雪にはならない
地^地一面が雨ではない

岩の上にも咲いている

(巖^いに高くそびえる)

山^山の上に花が
山^山に降り積もった雨^雨を見て
岩の上にも白い花が咲いている

花かと思えた

花など咲くはずはない

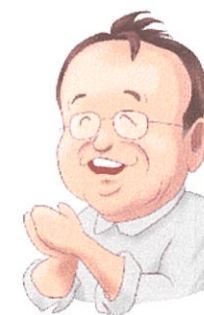
中島美大志
「雪の華」

※ すべて常体で表現させていただきました。さらに内容別に分けさせていただきました。よって分割した言葉もあります。

① 講座を終えての感想

- ・現代はとても便利だ。が、時間に余裕がなく、季節さえ楽しむ気持ちを忘れていた。
- ・平安時代より私たちの時代に続く心の動きや自然を愛でる感覚を呼び覚まされて、おもしろかった。
- ・参加している皆様の古典に対する知識のすごさに感心した。
- ・日本には美しい景色、花がたくさんあり、幸せだ。(てぬぐいも美しかった)
- ・てぬぐいがきれいだった。
- ・和歌にはリズムもあり読みやすく、かつ無駄がなく、また頭文字がかかっている、おしゃれ。
- ・日本文化は本当に美しいと実感した。

- ・今後も折にふれ、古典の世界に触れていきたい。
- ・苦手としていた古典文学の世界に学ぶことができ良かった。
- ・とても奥深いものと感じた。
- ・古文とは学生時代に少し学ぶ程度だった。この度の学習で、とても興味を持った。
- ・久しぶりで文学に触れました。遠い昔に戻ることができ、楽しいひとときだった。
- ・四十年ほど前に高校で手背物語の「かきつばた」を暗記したことを思い出した。
- ・大学時代は専門は国文学ではなかったが、高校時代に古文は好きだった。
- ・花の様子も時代とともに変化していることがわかった。
- ・わかりやすい講話で楽しかった。
- ・わかりやすい講義だった。次回も是非と思う。
- ・楽しかった、わかりやすかった。
- ・毎回楽しく聞かせていただいている。とても楽しかった。
- ・とても楽しい授業で学生に帰った様で、わかりやすく楽しく勉強させていただいた。
- ・初めての受講、とても面白く、わかりやすい。
- ・初めて講座を受けさせてもらい、わかりやすく楽しかった。てぬぐいの花も良かった。
- ・わかりやすく話していただき、とても楽しかった。
- ・楽しく1時間30分が過ぎてしまった。
- ・久しぶりの講座、学生時代習ったと思うが忘れていた。(笑)
- ・楽しく時間を過ごすことができ、参加して良かった。
- ・とてもわかりやすく楽しく、古典が身近に感じられる。素晴らしい内容だ。
- ・話の内容がわかりやすく楽しく受けることができた。
- ・肩がこらず、こういう講座が若い時に受けていたら、もっと古典が好きになっただろう。
- ・知識不足で発言することができなかった。これからの生活の中に取り入れていきたい。



- ・ これからの講座に期待する。
- ・ 次回も期待している。
- ・ 次回も楽しみにしている。
- ・ 茂原での古典講座、これからも長く続けてほしい。
- ・ 楽しい講座で毎回楽しみにしている。
- ・ 今後、色々なものを学んでみたい。
- ・ 万葉集を自分でも読んでみたい。
- ・ 7月にこれなかったのが残念だった。
- ・ 自分の都合に日程が合うことを祈るばかり。
- ・ 古典オンチの私だが、先生の講座で「目からウロコ」、来年もぜひお願いしたい。



- ・ 先生に教わった生徒は幸せだったと思う。
- ・ 息子が中学時代に国語の時間に使用した先生のお手製の教科書を思い出した。
- ・ 本物を見ることで、改めて文化のすばらしさを実感できた。子どもの頃にそんな体験ができる子は幸せだと思う。

② 今後、学びたい、古典に関すること

- ・ 古典の後ろにある知識をいろいろ教えてほしい。
- ・ 中学高校で学んだ文学作品をもう一度読んでみたい。
- ・ 花を学んだ。他の食べ物、自然物も知りたい。
- ・ 古典の本が物語にどう取り上げられているのかも知りたい。
- ・ 作品
 - 「古事記」
 - 「万葉集」 花に関して
 - 「伊勢物語」 業平を詳しく知りたい。
 - 「枕草子」
 - 「更科日記」 千葉県に関わりのある古典について学びたい。
 - 「平家物語」 源平の合戦で敗れた平家の公達のうたなど解説していただければ。
 - 「新古今和歌集」
 - 「梁塵秘抄」 (前回)
 - 「歎異抄」を学びたい。
 - 「徒然草」
 - 「奥の細道」 松尾芭蕉
- 俳句

